

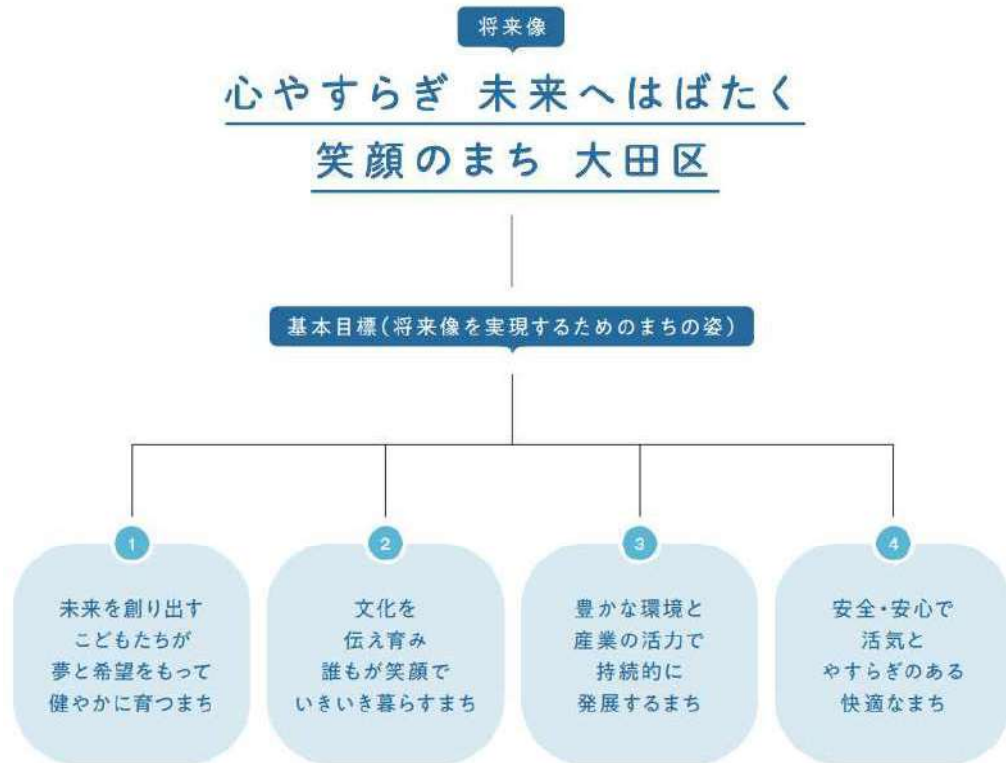
第2章 下丸子駅周辺地区の位置付け

1. 上位計画における位置付け

(1) 大田区基本構想

大田区基本構想は、2040年ごろ（令和22年ごろ）の大田区のめざすべき将来像「心やすらぎ 未来へはばたく 笑顔のまち 大田区」を提示し、今後のまちづくりの方向性を明らかにした、区の最上位の指針です。そして、「将来像」を実現するためのまちの姿として、4つの「基本目標」を定めています。

そのひとつが、基本目標4「安全・安心で活気とやすらぎのある快適なまち」であり、ランドデザインとも関連が深いものとなっています。



基本目標4 安全・安心で活気とやすらぎのある快適なまち

安全だけでなく安心であり、日々の生活を心穏やかに快適に過ごせることは、誰もが住み続けたいと思えるまちの実現につながります。

また、23区で唯一空港を有している強みをはじめ、様々な地域の特色をまちの活力につなげていくことも重要です。

都市の強靭化を進めるとともに、多様な地域特性を踏まえて、活気とやすらぎのある快適なまちをめざします。

- ・強靭な都市基盤の整備と地域の連携の強化により、心から安心できるまちになっています
- ・利便性の高い交通ネットワークの整備により、誰もがどこへでも気軽に移動できるようになっています
- ・鉄道沿線から広がる活気あるまちづくりや、空港を持つ強みを活かしたまちづくりを通じてにぎわいと交流が生み出されています
- ・安心で快適な住環境の整備により、ずっと住み続けたいまちになっています
- ・地域の特色を活かした、多様な特色を持つ公園が充実しています
- ・身近な場所でふれあえる水やみどりがあり、やすらぎを感じられるまちになっています

(2) 大田区都市計画マスタープラン（令和4年3月改定）

大田区都市計画マスタープランでは、概ね20年後（2040年代）を見据えた大田区の将来都市像として『暮らす・働く・訪れる』大田区らしい多彩な景色が人々を惹きつける」と設定しています。将来都市像の実現に向けて、生活の中の人々の活動（ソフト施策）とそれを支える都市基盤整備などの都市計画と深く関わる取組（ハード施策）が一体となった展開が必要です。そこで、ソフト施策とハード施策を織り交ぜた4つのテーマとその目指す姿を設定し、区民をはじめとした様々な主体と共有しながら、実現に向けて取り組むこととしています。



テーマ **A**
にぎわいと交流を生む
国際都市の発展

視点

- 1 持続的成長を支える魅力ある拠点
- 2 都市の発展を牽引する産業環境
- 3 来街者も円滑に移動できる交通環境



テーマ **B**
地域力を育む
暮らしやすい場の提供

視点

- 4 多様なライフスタイルに対応できる良好な住環境
- 5 様々な移動手段を選択できる地域交通



テーマ **C**
安全・安心な生活
の実現

視点

- 6 強靱で回復しやすい減災都市
- 7 様々な活動に支えられた安全・安心な都市
- 8 オープンスペースを活かした防災都市



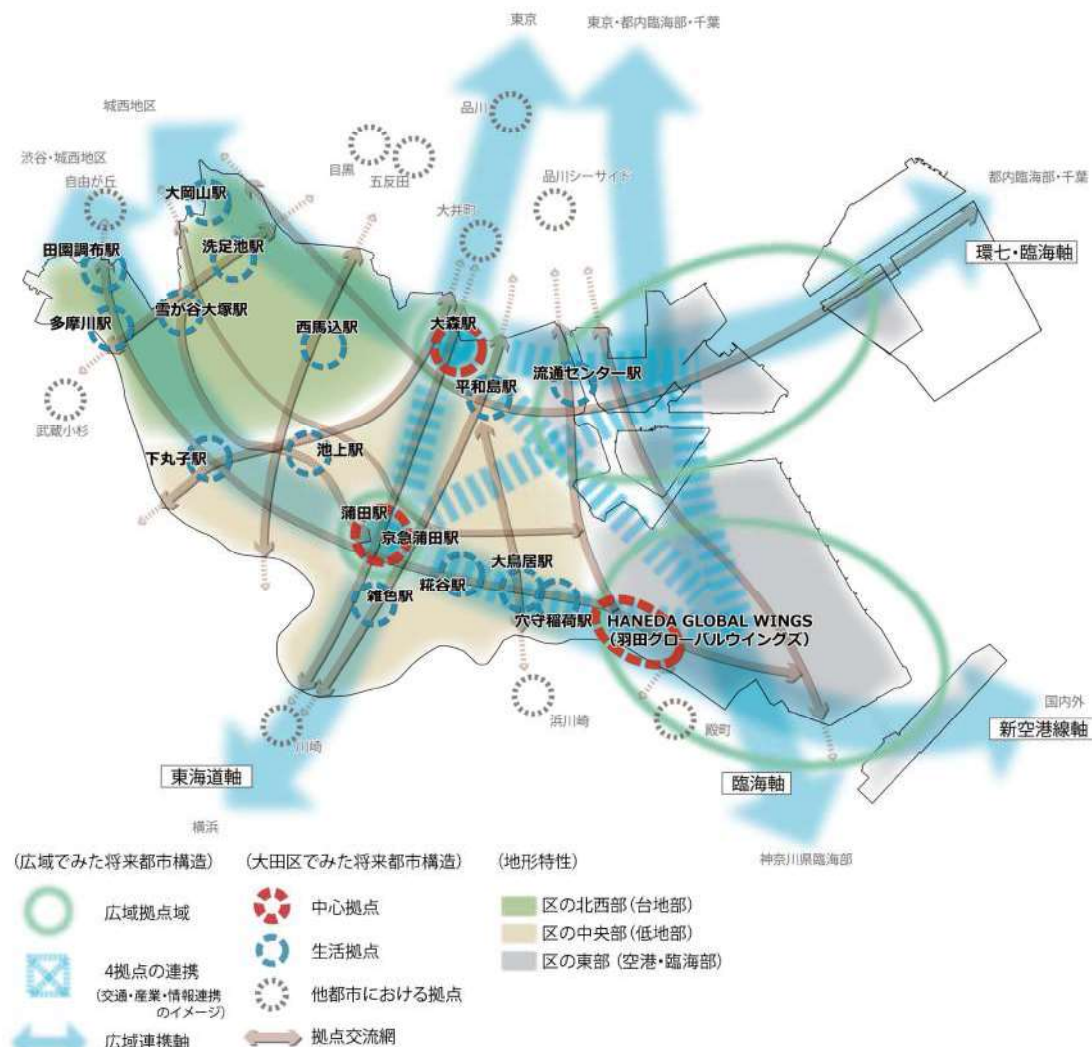
テーマ **D**
地球に優しい環境
の創出

視点

- 9 水と緑のネットワークによる安らぎのある都市
- 10 持続可能な社会の基盤となる脱炭素化が進む都市

大田区都市計画マスタープランの4つのテーマ・めざす姿・視点

当地区は「生活拠点」に位置付けられ、暮らす・働くなどの生活を支える多様な機能の集積を進めるとともに、地域特性を活かしながら、生活の中心となる拠点として維持・強化・活性化を図っていくことが求められています。



大田区都市計画マスタープランにおける将来都市構造

(3) おおた都市づくりビジョン（平成29年3月策定）

本ビジョンでは、新空港線との関係から広域的視点に立った当地区の交通ネットワーク上のあり方や、ものづくり産業の集積や多摩川などの地域資源を背景としたまちづくりの将来像「空港につながり、職・住・憩い・にぎわいが集まるまち」が示されています。

(4) 下丸子駅周辺地区まちづくり構想（令和5年3月策定）

本構想では、当地区の強み・弱み・社会動向とまちの将来に求められるものを整理し、およそ20年後の当地区のあるべき姿を示すまちづくりコンセプトと、4つの「目指すまちの姿」を設定しました。目指すまちの姿では、道路と鉄道の立体化に伴う駅周辺の基盤整備によるウォーカブルなまちづくりをベースに、イノベーションや豊かなくらしが実現するまちを、地域・企業・行政など、様々な主体によって共創していくことを掲げています。本構想については、第4章でも記載します。

